

願成寺報

平成十七年二月八日

〒四四〇・〇八二 豊橋市東新町二十八番地

☎〇五三二一・五二一・九六〇一

■ 報恩講のご案内

左記により報恩講を勤修いたします

報恩講は御開山親鸞聖人のご恩を報ずる法会で、真宗寺院および門徒にとって一番大切な行事です。今年も聖人の七四三年忌に当たります。

万障お繰り合わせの上、お誘い合わせてお参り下さい。早春の一日をゆったり過ごして頂ければ幸いです。

— 記 —

二月 十九日(土)

午前十時

法話 戸田 信行 師

お非時(粗飯準備します)

午後一時半

法話 戸田 信行 師

二十日(日)

午前十時

法話 戸田 信行 師

お非時(粗飯準備します)

午後一時半

法話 戸田 信行 師

汁粉

○ 本山では一月十六日(御開山の命日十一月二十八日を新暦に直した日)

までの七日間、**お七日夜**(報恩講)が勤まります。十五日の夕方にクラ イマックスのお勤めがあり、お参りして来ました。

一時間にも及ぶ長いお勤めの後、**戸田先生**が『**恩**』を題材にお話をされました。聞きながら、この身を慶ぶことと恩を知ることの関係を考えて いました。どちらが先であろうかと…。

如来堂から出ると、お裏様(本山の御庫裏様)が挨拶に立たれ、参詣の 人の足元を気遣っておられました。もう日が落ちてあたりは暗く、並べ られた**堤燈**がほの明るく山門までの石畳を照らしておりました。

この道を歩むのだと思いました。浄土へ向かって悟りを求めるのでなく、 穢土へ向かって、迷いの中に恩を見出そうとする一歩。釈迦如来、御開 山聖人、…亡き父や諸先輩の足跡に励まされながら、この場所で念仏を 慶ぶための歩みが求められていると感じました。

この一年を頑張ろうと思ひ直す、意義深いお参りの一日でした。

○ 本山義納金(金壱千円)について

昨年に続き集めません。

御影堂修理の募財は順調に集まっております。合計で金壱千五十万円を 修理事務局に送金致しました。

厚く御礼申し上げます。

修理も順調に進んでおり、そろそろ 屋根の工事が終わるようです。



本山ホームページ (<http://www.senjuji.or.jp/>) より
お七夜の勤行

「悲しみの深さの中に・・・」

阿弥陀経は釈尊（お釈迦様）が舍利弗様（智慧第一と讃えられるお弟子）に向かつてお浄土の様子を語られたお経です。その中に次のような描写があります。それは祇園精舎の林の中で、鳥の鳴き声を聞きながらの説法であったかもしれません。

舍利弗よ、極楽浄土にも様々な種類の鳥がいる。これらの鳥が日に六回、時を定めて声を合わせ雅やかに啼くのである。その声はそのまま、道理を信じて精進せよと、悟りへの道を奏でているのである。その土の衆生は聞き終ると、みなことごとく佛法僧の三宝を念ずる心になるのである。

舍利弗よ、この鳥たちは何かの罪の報いによつて鳥として生まれたと考えるてはならない。その土には地獄・餓鬼・畜生の三悪趣がないからである。

舍利弗よ、その土にはそもそも三悪道の名（概念）すらない。実はこれらの鳥たちは、阿弥陀佛が仏法の尊さを説き広めんと変化したものである。

釈尊の悟りの世界が私にも味わえる楽しい描写です。せつかく浄土に生まれても鳥になってしまう者があるのかと眉をひそめた舍利弗様の顔、それを諫める釈尊の笑顔が思い浮かびます。無常の風（それに吹かれると命が奪われるとされる風）が怖くて仕方がないと訴えたお同行に対して「それは阿弥陀さんだぞ」と応えたお寺さんがあるようですが、舍利弗様が相手であったら、釈尊もそんな風にお答えになったに違いありません。

穢土（迷いの世界）にあつて、浄土にないものは他にも沢山あるでしょう。好ましくないと思う事柄ばかりでしょうが、出会いはどうでしょうか？ 会話は別れの始まりですから会わない方が良いですか？ 浄土はすべての事

柄が願う前からかなくなっている世界だと聞きます。だとすると、そこでは別れの悲しみがなければかりか、出会いの驚きもないのではないかと想像されます。

ともあれ私達は、良くも悪くも出会いのある世界（穢土）に暮らしております。であれば、出会いの意味をしっかりと掴まなければなりません。しかし、凡夫として生まれている私達には、出会っている時その意味を掴みきることは出来ません。それはお風呂の中でお湯の温かさを感じる事が出来ないことに似ています。お風呂から出た後、ブルツと震えたとき、ああ暖かかったと気が付きます。出会ったことの本当の意味は別れた後の悲しみの中にあるのです。だから悲しみを大切にしなければなりません。無理に遠ざけようとしても出来ず、苦しみが加わるだけです。泣くべきときにしっかりと泣くことが出会った意味であり、生まれてきた意味なのかもしれません。

弥陀成佛のこのかたは いまに十劫をへたまへり

法身の光輪きはもなく 世の盲冥をてらすなり

《讚阿弥陀佛偈和讚より》

盲冥とは先のことが分からず迷っている私のことです。阿弥陀仏は、迷い悲しんでいる私をお目当てに照らして下さいます。それは、迷い・悲しみを取り去るのでなく、迷いや悲しみそのものを尊くする働きだと思います。迷うからこそ出会いも聞法もあるのだと思います。

命は尊いと言いますが、それは別れの悲しみを知って初めて気がつくことかもしれません。凡夫と生まれたことを嘆くのでなく、その意味を求めていく生活の中に命が深まっていくのだと思います。

（住職 福澤 秀倫）

「庭の手入れは難しい」

お庭のお手入れをどうしたらいいのか迷っています。

落ち葉を掃くのですがすがしいのだけれど、木の根が寒そうです。

そのままにしておけば、土に還りもとの樹を育てるかもしれません。
掃かれた落ち葉が、カサカサ集まり寂しそうです。

雑草を摘むのはかわいそうです。

雑草だって小さな綺麗な花が咲くのです。

そのままにしておけば、風に土が舞うのを防ぎます。

大事な土が雨に流れるのを防いでくれます。

何もお手入れしないのがいいのでしょうか？

自然のままがいいのでしょうか？

人の住むところにお庭があります。

人がいるからお庭です。

手が入ってお庭になります。

だからお庭は難しい。

よく鉢植えを枯らします。

毎日お手入れできません、

サボって台無しにしてしまいます。

だからお庭は難しい。

難しいから頑張ろう。

木々と私の元気のために、皆様に喜んで頂くために。



(坊守 福澤 真理)

「三世因果の道理」

私達の過去世・現在世・未来世を貫く因果の道理は宇宙の真理で佛教の根幹です。釈尊はこれを説かない教えは外道と区別されました。「善因果・悪因果・自因自果」の法則です。善い因には善い結果が生じ、悪い因には悪い結果が生じる。自業自得で自分が作った因は必ず自分に返る。因は行為であり、果は運命をさします。生きる上の幸福を求めることは、善い運命を求めることです。運命は私自身が作るものであって、神や佛が与えるものは絶対にはないのです。更にもう一つ因を助ける縁が加わります。「因果の道理」とも云えます。私の作った善悪が私の阿頼耶識アライヤシキとなって残ります。

佛教では私達の心を八つに分析し、眼識・耳識・鼻識・舌識・身識・意識・末那識マナシキ・阿頼耶識アライヤシキと云い、前六識は自分の意思で調節できるが後二識は自分ではどうにもならないもので業と云います。業は私の行為が私の「永遠不滅のいのち」に入力されて、不滅の業となります。その業の力は大象百頭にも勝ると教えていますが、聖職とされる警察官や先生も悪い縁がくると犯罪を犯してしまうことでも分かれます。

「廃悪修善」悪を慎み、善に精進努力することの大切さが知らされます。道徳の善悪は行為で判断しますが、佛教は心を重視します。思ってはならないことが思えてしまう。善に励めば励むほど善のできない私に泣きます。こんなとき「見聞知の阿弥陀佛」は呼びかけて下さいます。案ずるな、そういう人間を見抜いて、手をさしのべていると。善導大師は「利剣即是弥陀名号」リケンニシテミトノナゴウ、南無阿弥陀仏の中に煩惱を破砕し納めとって下さる佛智が満入していますよ、と教えて下さっています。

(前坊守 福澤 佳津子)

■平成十七年行事予定

† 後記 †

二月 十九日 (土) 報恩講
二十日 (日) 真宗寺院として一番大事な法会です
法縁を通して御開山親鸞聖人の恩徳を
仰ぎます

三月 十九日 (土) 春季彼岸(讚仏会)・永代経法会
それぞれにご縁のある仏様の遺徳を讃
え 仏様を通して私を振り返ります

九月 二十三日 (金・祝) 秋季彼岸(讚仏会)・永代経法会
それぞれにご縁のある仏様の遺徳を讃
え 仏様を通して私を振り返ります

十一月 三日 (木・祝) 高田本山団体参拝
高田本山の納骨堂法会に参拝します
豊橋市内・近郊の高田派寺院と共にバス
を借りての日帰り旅行です

○ 春季彼岸(讚仏会)・永代経法会について
例年、お中日(春分の日)に勤めておりましたが、前日に勤めます。
法話を、大野一英(前田町・圓城寺御住職)先生にお願いしました。
ベテランの先生です。是非ご聴聞下さい。

○ 秋季彼岸(讚仏会)・永代経法会について
法話を、安藤純海(岡崎市・蓮珠寺御住職)先生にお願いしました。
定時制高校の先生もしておられます。若手の元気な法話を是非ご聴聞下さい。

○ やれやれやつと書けました。書けない不機嫌な時間の長かったこと。家族にも迷惑をかけたなと反省します。書けない間、ネタを探しておりました。日常生活の中で気がついたことを法話の例え話にできたらいいなと思います。お笑い芸人がネタ帳を書くそうですが、近いものがあるなと思います。ネタを探している姿勢が、法を聞こうとする姿勢と一致していればいいのですが：
皆さんにも挑戦して頂きたいです。何か見つかったら投稿して下さい。この紙面が、聞法の道場に育てば最高だと思います。

○ 子供の頃テレビばかり見ておりました。ウルトラマンなどを見ていたのですが、業を煮やした母がこんなことを言いました。「どうせ三十分したらウルトラマンが勝つでしょう」と。子供心に勝ち負けの問題ではない、結果ではないと思いました。実は怪獣の方を応援していたりするのです。強い悪役ほど人気が高いものです。怪獣が強くなければ、ウルトラマンの地球人を思う心の強さが感じられない・現れないからだと思えます。

○ 我が子もデカレンジャーを見ています。大きくなったらヒーローになるうと思っているようです。ご免なさい。多分あなたはヒーローにはなれません。父は平凡な男で特別な素質をあなたに分けてあげる事ができませんでした。逆に、ことに当たって自信がなく、迷ってイジイジする所が似ているように思います。本当に申し訳ありません。
それでも生まれて良かったと思える道がある筈だから、一緒に探して歩きましょう。

○ 昨年も沢山の方が亡くなられました。沢山の悲しみを知りました。父が亡くなった時、父の人生が良かったのかどうか考えました。でもそれは、こう在るべきだという私を中心にした思いでした。それを外したら涙が出ました。別れの時はそれだけが大事だと思えます。
積尊も舍利弗様の訃報にあつて、ただ号泣されたということです。